

文部科学省選定 広島文化学園 研究ブランディング事業
認知症カフェ「あがりんさい」西延崎プラチナクラブ編その1

テーマ： 回想コミュニケーションで認知症予防

1. 日 時：令和元年6月5日（水）11：00～12：30
2. 場 所：広島文化学園大学看護学部、畑・調理実習室
3. プログラム

- (1) オリエンテーション 挨拶 認知症カフェ「あがりんさい」副責任者 加藤重子
- (2) 畑の交流を通して、回想コミュニケーション 西延崎プラチナクラブ
さつまいも、 なす、オクラ、なんきんまめの植え付け
かぼちゃの手入れ
- (3) お茶の時間、交流 広島文化学園大学看護学部 認知症看護強化コース
収穫たまねぎの試食

4. 参加者 総数 26名

西延崎プラチナクラブの皆様 10名

認知症サポーター 広島文化学園大学看護学部3年生 13名

教員 教授 加藤重子、准教授 今坂鈴江、講師 風間栄子

4. 認知症カフェあがりんさいの様子

今回は、畑の交流を通して回想コミュニケーション、おしゃべりで認知症予防を目的としたプログラムであった。畑の指導は、西延崎プラチナクラブの皆様をお願いしてコミュニケーションをとった。

昨年度のさつまいもの収穫に引き続き、さつまいもや夏野菜の植え付けを体験した。

高齢者に得意な分野を発揮していただき、学生は、畑作業を習った。

汗を一緒に流し畑を耕し、一緒に土間に座って休憩し、一緒に肥料や水やりを行った。

その後、調理実習室に場所を移動し、認知症看護強化コースの学生は、演習で学んだバリデーション技法を取り入れて、回想コミュニケーションを実施した。阿賀のむかしの様子、遊園地や動物園の存在、子どもの頃のこと、昔の災害のことなどを語り合い感情を表出することができた。

学生は、畑作業や勉強のことを話したり、高齢者の話を聞かせていただく中で自身の祖父母と重ね合わせたりしながら、また、高齢者も孫と重ね合わせたりしながら、互いの理解を深めた。

昨年度、一緒に植え学生が収穫した玉ねぎのフライや玉ねぎの味噌汁、玉ねぎ炒めを試食して、「同じ玉ねぎもこんなにおいしく色々な食べ方があるなと思った。」一緒に植えて、育てた玉ねぎの味は格別であった。共食の喜びを体験した。

また、『かぼちゃも順調に成長しており、今後のソフト食調理実習に使えるそう、「育てる楽しみ」、「学びながら作る楽しみ」、「学ながら食べる楽しみ」につなげていきたい。』と今後のカフェ運営につながる話し合いに発展した。



プラチナクラブの皆様へ指導を受けながら一緒に畑を耕しています。



ひと汗をかいて水分補給。身体を少し冷まし、さつまいもと夏野菜と一緒に植え付けました。



プラチナクラブの皆様 10 名と認知症看護強化コース 認知症サポーター学生 13 名



昨年度、一緒に植え付け、学生が収穫したたまねぎと一緒に試食しました。



昨年度からの継続した関わりで、学生も高齢者も馴染みの関係になってきました。共に汗をかき、収穫した野菜を試食し、楽しかったことや大変だったことを語り合い貴重な時間を過ごしました。

去年の災害後のカフェを思い出しながら、今年は、無事に七夕会を開催しよう！と願いました。